

吉田秀雄の面魂は、いつしか“広告の鬼”と呼ばれるようになる。

その極めつけが、昭和二十六年（一九五二）八月、「電通」の創業五十一周年を機に、四十七歳の彼が執筆した、「鬼十則」であったろう。

その十則は業界を超え、多くの企業人の共鳴者を持ち、今日なお忘れられないことがない。

- 一、仕事ハ自ラ「創ル」可キデ、与エラル可キデナイ
 - 二、仕事トハ先手先手ト「働キ掛ケ」テ行クコトデ、受ケ身デヤルモノデハナイ
 - 三、「大キナ仕事」ト取り組メ、小サナ仕事ハ己レヲ小サクスル
 - 四、「難シイ仕事」ヲ狙エ、ソシテ之ヲ成シ遂ゲル所ニ進歩ガアル
 - 五、取り組ンダラ「放スナ」、殺サレテモ放スナ、目的完遂マデハ
 - 六、周囲ヲ「引キ摺リ廻セ」、引キ摺ルノト引キ摺ラレルノトデハ、永イ間ニ天地ノヒラキガ出来ル
 - 七、「計画」ヲ持テ、長期ノ計画ヲ持ツテ居レバ、忍耐ト工夫ト、ソシテ正シイ努力ト希望ガ生レル
 - 八、「自信」ヲ持テ、自信ガナイカラ君ノ仕事ニハ、迫力モ粘リモ、ソシテ厚味スラガナイ
 - 九、頭ハ常ニ「全廻転」、八方ニ氣ヲ配ツテ一分ノ隙モアツテハナラヌ サービストハソノヨウナモノダ
 - 十、「摩擦ヲ怖レルナ」摩擦ハ進歩ノ母 積極ノ肥料ダ、デナイト君ハ卑屈未練ニナル
- ところがこの作者は、自ら会心のこの十則を、役員や社員に朝礼などで復唱させるなど